

和歌山県立博物館評価(令和3年度事業評価用)

<p>博物館長による所見</p>	<p>新型コロナウイルス感染症防止のため外出の自粛があったが、秋に行われた国民文化祭、全国障害者芸術文化祭もあり、入館者数の減少は一定程度に踏みとどまったといえる。こういう事態を機に、適切な危機管理のもと博物館活動をどう継続させるかを考える時期に来ている。春の特別展「きのくに刀剣ワールド」は刀剣ブームでもあり注目され、また秋の「きのくにの名宝—和歌山県の国宝・重要文化財—」は、当館創立50周年記念、国民文化祭、全国障害者芸術文化祭協賛という冠の影響も大きく、評価の高い展覧会であった。さらに、正月を挟んで行われた「和歌山と皇室—宮内庁三の丸尚蔵館名品展—」は、宮内庁・文化庁との共催という異色の企画であり、広く興味を喚起した。このような特別展の間に催している企画展を入れると、いつ来館しても当県の文化情報を高水準で提供できる体制が確保されつつあるといえる。学芸員は各自の専門とその周辺分野をカバーしているが、常設展示があっても担当学芸員のいない考古など、不足している分野の人員を補う必要があり、さらにいえば学芸庶務のポストも是非必要である。危惧される南海トラフ地震への対策、あるいはレプリカ製作による盗難防止・社会教育の試みは、地域住民との共働という文化財保護法の理念を先取りするものとして他府県の模範となっており、さらに継続されたい。災害時には文化財の緊急避難が必要になることを考えると、収蔵庫の効率的活用を再考する時期に来ている。展覧会のPRのために、メディアをさらに利用する方策を検討することが望まれる。</p>
<p>評価部会による所見</p>	<p>県立の博物館として貴重な文化財を収集・保管するための努力がかなりなされている。より一層の購入予算の増大や収蔵スペースをより工夫して、有効に使用ことが不可欠である。2年続コロナ禍のもと、人の移動が減少する中で、来館者が前年度より増加したことは取り組みの成果である。とくに県内の学校利用が増えていることは館の独自努力として評価される。コロナ禍の時にこそできる取組を模索する必要がある。また、大学との連携、外部資金の獲得など、博物館を越えた枠組みで事業に取り組んでおり、今後も継続することが重要である。さらに、博物館の利用促進や広報につなげるための収蔵品の画像のデジタル化が徐々に進められており評価できる。今後資料公開が早急に進められることが期待される。調査研究に基づいた充実した展示や図録作成は高く評価できる。ホームページの充実を図られているものの、調査研究の成果を広く普及するための手段として、図録とあわせて、来館者がより展示内容が理解できるようなスマートフォンやタブレットといった端末の積極的利用が進められ、成果が見られるが、これをさらに推進することや、これまで博物館にあまり興味を持たなかった人たちが行きたくようになるような、博物館へ誘う取組も必要となっている。これらを推進するための教育普及を担当する専門職員を配置することを検討する時期が来ていると考えられる。</p>

令和3年度 和歌山県立博物館評価様式

1. 資料収集・管理

博物館長による所見	県内資料の収集という方針のもと購入・寄託とも適切に行われているが、購入予算の増額については継続的に訴えていく必要がある。収蔵品の未撮影分は早急にデータ化することが望まれる。有効活用の見込まれない作品を選別するなど、収蔵庫に一定の残存率を確保しておくことが望ましい。博物館建物の建築経年を考えると、カビ害をとくに注意する必要がある。収蔵品のコンディションチェックは常時行われている。当館での展示や他館への貸し出しなど資料の活用は積極的に行われている。
評価部会による所見	資料の購入予算は、ある程度確保されているが、もう少し多い方が県立の博物館としてはふさわしいのではないか。収蔵スペースの確保が課題となっており、収蔵品の管理のあり方にさらなる工夫が必要である。資料貸出の基準の明文化は課題であるが、収蔵品の活用という点からいえば、基準の運用には幅をもたせることも配慮すべきである。画像のデジタル化とその公開は徐々に進められてはいるが、博物館の幅広い利用や広報にもつなげられるので、積極的に早急に行うべきである。作業促進のため、外部委託をすることも必要である。

①資料収集

(1)適正な資料・図書の収集とその数量の把握

令和3年度目標	館蔵品及び寄託品の画像デジタルデータについて、保管・整理上のルールを定め、活用を容易にできるような状態にするとともに、未撮影分の撮影計画を立てる。
自己評価	画像はフィルムとデジタルデータが混在している現状をふまえ、フィルムのみ画像のうち館蔵品については業者に委託してデジタルデータ化した(1200点)。未撮影分については、学芸員が必要に応じて撮影を行っている。
課題・改善案	令和4年度から3年間の計画で、「和歌山博物館施設デジタル化計画」事業が行われることになり、まず館蔵品の未撮影分を業者委託するなどして、館蔵品のデジタルデータ化を促進する。

②資料保存

(2)資料の保存環境管理、点検調査、資料の修復

令和3年度目標	収蔵庫内の棚・棚板増設のための、中長期計画を立てる。総合的虫菌害管理における、調査項目の見直しを行う。収蔵庫内定期清掃・整理についての作業指針を設けて実施する。
自己評価	収蔵庫の収蔵状況を再点検し、収蔵品の収蔵場所を一部変更して、効率的な収蔵方法を模索している。総合的虫菌害管理における、調査項目の見直しについては検討中。清掃・整理については場所を決め、当番制で行っている。
課題・改善案	棚の増設を具体的にどの場所から行うか、業者から提示された原案をもとに、引き続いて検討していく。清掃・整理については、長期的に継続して行える方法を確立する。

③資料管理

(3)資料の管理方法、全体の数量の把握

令和3年度目標	ネット上での公開などを念頭に置いて、館蔵品データベースと寄託品データベースを統合するための方式を検討する。
自己評価	館蔵品データベースと寄託品データベースを統合するための方式についてはモデルとなるものを決定した(館蔵品1,158件・24,624点;寄託品2,658件・16,893点)。
課題・改善案	今年度から「和歌山博物館施設デジタル化計画」事業が行われることから、近代美術館、紀伊風土記の丘とも情報交換しながら、年度末までに館蔵品のデータベースの公開を行う。

④資料の活用

(4)他機関への貸出、資料の情報公開

令和3年度目標	他機関への貸出基準を明文化し、ホームページなどで公開する。貸出用デジタルデータの整理を継続して行う。
自己評価	他機関への貸出基準の明文化はできなかった。ホームページで公開している「写真資料の貸し出しについて」は、修正を検討中である。
課題・改善案	貸出基準の明文化を速やかに行う。押印の廃止など、画像利用申請にかかる手続きの簡素化をすすめる。

2. 調査・研究

博物館長による所見	学芸員の調査・研究は顕著な成果を上げており、その成果が展覧会に反映されているのはよい傾向である。科学研究費による調査研究を始め、共同研究などは積極的に行われているが、その成果を、学術雑誌や学会発表などで公にすることが望ましい。将来予想される災害や頻発する盗難事故に備えた調査研究が継続的に行われているのは他県の博物館の手本となっており、大きく評価できる。
評価部会による所見	調査研究をふまえて、充実した展覧会の開催や図録の刊行を行っている点は評価できる。こうした学芸員の地道な調査研究が、今後も同じように続けられるような体制を維持していくことが重要である。博物館活動の一環として行っている地域で文化財を守る取り組みは成果を上げており、今後も継続して行うべきである。調査するための人員の確保などについては、非常勤の調査員や調査補助員の採用、大学との連携などの工夫を考えても良いのではないかと。調査のなかで撮影したデジタルデータの数量については、数値化して成果を見える形にする必要がある。

①調査研究活動

(5)適正な調査研究、調査研究データの整理、共同研究の実績

令和3年度目標	調査研究データ（テキスト・画像）のルールを定めて集積するとともに、既存データの整理を行う。他機関との共同研究を、引き続き同様の規模で実施する。
自己評価	調査研究データ（画像）は、共有のハードディスクに保存し、可能な限りでテキストデータも作成、情報共有している（約10万点）。取捨選択して集積するルールは未確定である。他機関との共同研究は6件（昨年の3件に加え、中世文書調査関連3件）
課題・改善案	今後は研究内容を精選しながら、共同研究を進めていく必要がある。

②研究成果の活用

(6)展示・教育普及活動等への反映、学術的公表

令和3年度目標	引き続き、館の事業と関連して研究成果の公表につとめるとともに、外部での公表の機会を積極的に利用する。
自己評価	展覧会・研究紀要・講演会などでの研究成果の公表は、従前通り実施した。講師として派遣され、研究成果を公表した講演会は、計18回。
課題・改善案	令和2年度と同様に、研究成果の公表につとめるとともに、外部での公表の機会を積極的に利用していく。

3. 展示

博物館長による所見	特別展・企画展は県民の要望をよく反映しているが、さらにアンケートなどを利用して斬新な企画を考えてほしい。令和6年度に予定される大規模展へのコンセプト策定を考え始めてもよい時期である。レプリカやパネルなど補助展品は定期的に修繕、更新が必要であろう。企画展で小図録を発行することを考えてよいと思う。そのための予算要求も必要になろう。
評価部会による所見	スマートフォンなどの端末で解説を聞くことができる取り組みは評価できる。外国人を含む来館者がより利用しやすいように、さらに充実したものにする必要がある。展示のタイトルや内容については、工夫が一段と進んでおり、努力が評価されるが、若い人の感性でなお一層斬新な視点で取り組む必要がある。また和歌山県内には全国レベルの文化財が多いので、和歌山対象の地域研究にとどまらず、全国的な視点で発信していく内容にすることも重要である。展示について、県博と和歌山市博との連携やすみ分けを検討することが必要である。

①常設展

(7)展示の更新、計画的な保守・管理

令和3年度目標	模型・パネル・複製などの種類ごとに、修繕にかかる見積を取る。同時に、研究の進展に伴う解説の修正について、該当箇所を検出する。音声ガイドについては、企画展示室を含むWi-Fi環境の整備を行い、来館者端末で利用できる準備をする。
自己評価	具体的にどのような模型・パネル・複製にするか十分検討し切れていないため、見積もりを取りにいたっていない。企画展示室を含む展示室内のWiFiの電波を繋がりやすくするための改善工事をおこない、来館者用端末で利用できる環境が整った。
課題・改善案	現状の模型・パネル・複製において、修正が必要な内容についてピックアップしたうえで、修繕にかかる見積りを取る。企画展示室での来館者用端末を利用した音声ガイドの方式を試験的に行う。

② 特別展・企画展

(8)コンセプト・構成・展示手法、成果物、来館者・展示資料の安全

令和3年度目標	上半期までに令和5年度までの計画を策定し、博物館協議会などに諮る。新型コロナウイルス感染症流行の状況を考慮しながら、サービスが低下しないように解説計画を立案して実施する。
自己評価	令和5年度までの大まかな構想は検討しているが、学芸員の構成に変動があったため、具体的な内容について協議会に諮るには至らなかった。令和4年度については、当初の計画通り実施する方向で、各展覧会を準備している。
課題・改善案	令和6年度は大規模展を行う予定であり、下半期までに令和6年度までの計画を策定し、協議会などに諮るようにする。

③ 館内小展示・出前展示

(9)実績とコンセプト

令和3年度目標	引き続き、テーマや時期を検討して、随時開催する。
自己評価	2階文化財情報コーナーで特別展・企画展に関連するスポット展示として、「赤坂離宮邸内宮繕関係図面」・「仮面が語る地域の記憶」・「和歌祭面掛行列の中世仮面」の3本を開催した。
課題・改善案	今後も資料の保全に留意しながら、随時開催する。

④入館者の傾向

(10)アンケートの分析

令和3年度目標	さらにアンケート回収率の向上につとめる(15%程度)。アンケートの集計情報を、ホームページで公開する。
自己評価	年間を通じた回収率は8.0%で、昨年度より2.9%低下した。アンケート内容のデータ整理は行っているが、公開には至っていない。
課題・改善案	入館者にアンケートを周知する方法や回収場所への案内方法などを検討し、アンケートの集計情報をホームページで公開する。

4. 教育普及

博物館長による所見	コロナウイルス感染の危険性を排除しつつ、同時に積極的に進める必要がある。学校・団体などに博物館を積極的に利用してもらいたいところだが、感染の危険を避けるのが優先される。体験学習・ワークショップ・講演なども困難が伴うが、オンラインなどの別の方法を検討する。3Dレプリカのさわられる展示には感染の危険性という矛盾した問題があり、検討課題である。ボランティア活動は順調のように見られる。
評価部会による所見	ワークショップなど教育普及を行うための教育担当の専門職員、学校利用などのマネジメントする職員が必要となってきている。他館で行われているようなボランティアの活用も検討する必要がある。コロナ禍の状況で、県内の学校利用が増えたことをみれば、逆にこの時期だからこそ地域に根付いた博物館のあり方を追求する努力、魅力を県民とつなぐための努力をする必要がある。アンケートの分析にあたっては、回収率が十分でないのでスマートフォンなどを活用したアンケート回収、意見収集方法を模索することも必要である。

①学校・団体の利用

(11)学校・団体の利用実績と広報活動

令和3年度目標	前年度を上回ることを目標とするが、参加者の安全に留意しながら、可能な範囲で対応する。
自己評価	学校団体の利用実績は、34校1,370人。新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、校数は前年度比で2校減、人数は239人減であった。前年度は特別展(粉河寺縁起)開催時に那賀郡内からに学校が比較的多かったが、今年度は特別展の性格上、その傾向はみられなかった。
課題・改善案	特別展で取りあげる地域の学校への広報を積極的に行っていく。

②講演会・博物館講座

(12)講演会・博物館講座の実績、参加者へのアンケート調査

令和3年度目標	講演会・博物館講座は、予約制による人数制限をかけながら、可能な範囲で実施する。
自己評価	事前申込制による人数制限(2階学習室20人、AVホール50人)をしながら、講演会・博物館講座は従来と同じ程度開催することができた(3つの特別展で計6回)
課題・改善案	感染予防対策を講じながら、可能な範囲で実施する。制限する内容については、感染状況をふまえながら、臨機応変に対応していく。

③展示解説・ワークショップ・見学会・関連行事等

(13)実績の把握、参加者へのアンケート調査

令和3年度目標	展示解説の代替措置（ネット上での動画配信など）について、検討する。新型コロナウイルス流行の状況下でも開催可能なイベントについては、十分に検討した上で、実施をはかる。
自己評価	展示解説（ミュージアムトーク）・ワークショップは、感染予防のため実施できなかった。現地学習会（文化庁補助金事業、田辺市・上富田町）は、実施する予定で広報を行ったが、直前で中止した。報告内容は収録してネットの動画配信を行った。
課題・改善案	展示解説を安全に再開できる方法を検討し、実施していく。

④県民との協業

(14)ボランティア・友の会などの活動実績、観光事業との連携

令和3年度目標	和歌山大学ミュージアムボランティアについては、参加者の安全に留意しながら、従前と同じメニューで実施する予定。一般のボランティアについては、博物館友の会を母体とするような募集を検討する。
自己評価	和歌山大学ミュージアムボランティアは、昨年同様に学外活動自粛があったが、6名の学生が延べ19回参加し、「さわれるレプリカ」の着彩・寄託資料の調査、音声ガイドのナレーション（1回）に従事した。
課題・改善案	和歌山大学ミュージアムボランティアについては、参加者の安全に留意しながら、従前と同じメニューで実施する。ただし、着彩については、和大学生に限らず、幅広く募集できないかを検討する。一般のボランティアの募集については、引き続き募集を検討する。

⑤人材育成

(15)学芸員実習・インターンシップ・教員研修などの受入実績

令和3年度目標	参加者の安全に留意しながら、従前と同程度の規模で受け入れる。
自己評価	学芸員実習（1回・7名）及び教員研修（2回・23名）は例年通り実施した。インターンシップは新型コロナウイルス流行のため、実施校は1校2名（前年度3校4名）にとどまった。「けんぱく・こどもゼミ」は、実施時期が第6波と重なったため、やむを得ず中止した。
課題・改善案	参加者の安全に留意しながら、可能な限りで受け入れる。「けんぱく・こどもゼミ」については、受験の時期を考慮して、夏休みに実施できないか検討する。

⑥文化財に関する相談への対応

(16)問い合わせ・質問（電話・来館等）への対応実績

令和3年度目標	問い合わせ・質問への対応件数、その内容について効果的に記録する方法を検討・実行する。
自己評価	対応件数は、499件。
課題・改善案	記録すべき内容を明確化して、この基準に従って実施する。

5. 広報・情報発信

博物館長による所見	ポスター、チラシは県内外の必要な施設に送付されているが、交通要所など人流の拠点に重点的に送る。自宅に留まることの多い昨今であるから、HPの利用は増加すると思われるので、定期的な更新と一層の内容充実を行う。広報・情報発信のための予算が必要である。
評価部会による所見	ホームページのリニューアルとスマートフォン対応などによって、ホームページへのアクセス数が増加したことが高く評価される。今後も、利用者が求めている内容をホームページで簡単に知ることができ、いつも閲覧してみたいと思うホームページの内容にする努力が必要である。コロナ禍の状況であるが、テレビ・新聞などへの資料提供は積極的に行っており、一定の成果が上がっている。今後も地道に行っていくことが重要である。

①メディアへの情報発信

(17)取材への対応・掲載の実績

令和3年度目標	異なる角度による同一件名の複数提供など、報道機関への資料提供を積極的に行う。
自己評価	報道機関への資料提供回数は15回。
課題・改善案	報道機関への資料提供以外にも、情報を提供する方法を模索する。

②ホームページの運営

(18)アクセス件数・更新回数、コンテンツ・デザイン等の工夫

令和3年度目標	年間閲覧回数80,000カウント。携帯端末でも快適に利用できるように、画面のデザインの変更を検討する。
自己評価	年間閲覧回数89,000カウント。画面のデザインをリニューアルして、携帯端末からも利用しやすいようにした。
課題・改善案	リニューアルした画面がより快適に利用できるように、さらに検討する。

③印刷物の制作

(19)ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等の制作実績

令和3年度目標	ポスター・ちらしの数量に過不足がみられるので、引き続き印刷枚数・配布枚数の検討を行う。
自己評価	特別展ごとに印刷枚数を設定した（きのくにの名宝60,000枚、和歌山と皇室40,000枚、大般若経45,000枚）。
課題・改善案	特別展ごとの入館者目標も念頭に置きながら、印刷枚数や配布枚数を検討する。

④さまざまな広報手段

(20)多様な広報手段の検討

令和3年度目標	令和3年度に開催する大規模展では、ターミナル駅での広報など、新たな広報手段を交えて広報を展開する。
自己評価	大規模展（きのくにの名宝）では、JR和歌山駅の壁面や和歌山バス（1台）の側面、タウン誌などへの広報をおこなった。
課題・改善案	通常予算に戻った特別展での新たな広報手段を検討する。

6. 組織と運営

①組織・人員、職員研修

博物館長による所見	総務課と学芸課が一体となり運営されていること、および学芸各員の自主性が重んじられるところは、他府県の博物館施設の模範となるところで、大いに評価できる。入館者数の目標を中長期計画で実施し、年度ごとにその評価を行うことも考えられる。防災マニュアルが策定され、避難誘導訓練が行われたが、各職員の体験的訓練が望ましい。
評価部会による所見	社会からより求められるようになってきた教育普及やデジタル化を担当する学芸員の増員を検討すべき時が来た。博物館として人材の確保は急務の課題であり、長期的な視点で職員の配置をどのようにしていくべきか、館としてのビジョンを持つべきである。すぐに学芸員を確保できないのであれば、大学などの外部の力を活用するなどの方法も模索すべきである。学芸課と総務課が一体となって運営できている県博の状況は非常に評価できる。ミュージアムショップでのクレジットカード決済を可能にしたことなども、博物館の敷居を下げるという役割を果たしており、その努力は評価できる。

(21)適切な人員配置についての検討、各種研修への参加実績

令和3年度目標	文化財に関わる国実施の研修に、学芸員を参加させるほか、館内業務の共有・継承のため、館内での研修も行う。
自己評価	文化財に関わる国実施の研修に、参加する機会がもてなかった。
課題・改善案	若手学芸員が、文化財に関わる国実施の研修に参加できる環境づくりを進める。円滑に事務継承できるように、館内での研修を行う。

②利用者数

(22)利用者数の把握・分析

令和3年度目標	入館者35,000人。当面の中期的目標は50,000人とする。新型コロナウイルス流行の影響は非常に大きいですが、前年度より増加することを最低限の目標とする。新型コロナウイルス感染症流行収束後のためにも、魅力のある展覧会を継続することによって、来館者の当館への関心を維持させる。
自己評価	入館者は22,000人で、前年度比で3,000人の増加をみた。ただ、コロナの影響は前年度と同様に大きく受けている。
課題・改善案	県立博物館としての役割を果たすべく、高野山や熊野といったよく知られた地域だけでなく、これまであまり取りあげられなかった地域を対象にした展覧会を開催することで、県民全体にとって魅力ある内容となるよう努めていく。

③情報公開

(23)使命、目標、計画、評価などの整備・公開

令和3年度	課題の設定とその改善というサイクルを、早期に確立する。策定された前年度評価は、できるだけ早くホームページ上で公開する。令和3年3月に策定された「和歌山県文化財保存活用大綱」の中で位置付けられた当館の役割を、ホームページ上や展覧会などで示すとともに、その中で定められた「文化財の保存と活用の基本方針」及び措置や対応策との関わりについて、一定の整理を行う。
自己評価	前年度評価についてはホームページで公開した。
課題・改善案	「和歌山県文化財保存活用大綱」における「文化財の保存と活用の基本方針」をふまえた当館の役割について、公開を行う。

④危機管理

(24)危機管理・防災体制に館するマニュアル作成、実地訓練等の実施実績

令和3年度目標	さまざまな危機（火災・地震・不審者侵入など）に対するマニュアルを整備し、訓練を実施して、事態に備える。「和歌山県文化財保存活用大綱」に基づき、大規模災害時の対応として、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議（和博連）の構成員としての対応と、館独自の対応との関係についての方向性・方針を定める。
自己評価	防災マニュアル(特に火災)を整備し、避難誘導訓練を行った。和博連の中核館の1つとして、「災害の記憶」事業などを通じて、文化遺産課・文書館と連携し、被災する可能性のある地域を中心に文化財の保管状況を継続している。
課題・改善案	和博連の構成員としての対応と、館独自の対応との関係についての方向性・方針を検討する。火災以外の訓練(地震など)もマニュアル化する。

7. 施設・設備

博物館長による所見	対人および対列品を目的にした免震設備を総合的に考える時期に来ている。建物が築20年以上を経過しているので、カビの発生防止は早めに対策を講じておくのがよい。
評価部会による所見	エントランスでWi-Fiが繋がりにくいところがある。展示の感想などをSNSで発信してもらうことが一つの広報になるので、Wi-Fi環境が悪いのであれば抜本的に改善しないとイケない。現在の建物が建設されたのは、阪神淡路大震災の前ということで、施設の免震については十分でないところがある。免震対策などについて、国からの補助を受けられないか、検討する必要がある。

①施設設備の維持管理

(25)日常的な点検・改修保全の実施実績、安全衛生の管理、中長期修繕計画

令和3年度目標	緊急性の高い箇所から、予算化して実施に移す。定期的な改修が必要な箇所の計画をたてる。
自己評価	当館・近代美術館で緊急性の高い外壁改修・エレベータ改修・空調改修を予算化し、令和3年度は緊急性が最も高い外壁改修の設計を実施している。
課題・改善案	外壁改修を実施するとともに、展覧会スケジュールと連動するエレベータ改修・空調改修の計画を近代美術館と協議して、決定する。

②アメニティーの向上

(26)バリアフリー・ユニバーサルデザイン等への対応

令和3年度目標	館内の表示に、多言語表示を行うための検討を行う。新型コロナウイルス感染症流行の状況を見ながら、「さわれるレプリカ」の展示を復旧する。
自己評価	「さわれるレプリカ」の展示は、感染拡大防止対策を講じたうえで、10月30日から再開した。多言語表記については、検討中。
課題・改善案	館内を移動する障害者が、目的とする場所への動線がよりわかりやすくなるような方法を検討する。

8. 財源

博物館長による所見	現予算を下回らないよう努力が必要である。現在助成を受けている文化庁補助金のほかに、国の科研費や民間の助成金を有効に活用する。
評価部会による所見	外部資金の調達にかなり努力している点は評価できる。さらに外部資金を獲得するためには、科研費などの競争的資金の調達や展覧会事業に資金を出している企業を探すなどの努力も必要である。展覧会の開催などにおいて、大学にもそのような潜在的ニーズがあると思われるので、大学と連携し、財源の一部を大学に負担してもらうような調査・展示の方法を検討されたい。

①予算の確保

(27)財源の確保、歳入実績

令和3年度目標	受付・ミュージアムショップでの支払いを容易にするため、クレジットカード決済を可能にするための整備を行う。
自己評価	教育委員会と協議して、県立博物館施設4館でクレジットカード決済を可能とした。
課題・改善案	通常事業に必要な財源の維持のため、若い世代の人がより利用しやすくなるための方法を検討し、歳入をあげるための努力を行う。

②外部助成金等

(28)外部助成金等の獲得実績

令和3年度目標	引き続き、文化庁補助金・科学研究費補助金などの獲得につとめる。
自己評価	文化庁「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を実施した（3事業、事業費5,789,827円精算額）、科学研究費補助金事業1件採択された（4,030千円）。受託研究1件（325千円）
課題・改善案	文化庁補助金・科学研究費補助金などの獲得につとめる。